

2017年度 学校法人 三幸学園 東京こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島 聡平

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 佐藤 衣里

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、こども分野の学校として「子どもを育み、人、社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、こども分野として「誰からも信頼、感謝され、子どもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

こども校の人材育成体系

<u>三幸学園ビジョン</u>	: 人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする
<u>こども校ビジョン</u>	: 子どもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする
<u>人材育成方針</u>	: 皆から信頼・感謝され、子どもの未来を育む人材を育成する
<u>目標とする人材を育成するための教育</u>	: 主体性・団結力・組織活性力・実践力・感動感謝できる力・あいさつ・マナー etc
<u>募集対象者像</u>	: 子どもが好き、明るく元気で素直な人
<u>教育理念</u>	: 技能と心の調和
<u>三幸学園ミッション</u>	: 人を活かし、困難を希望に変える

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教務】

- ・退学率低減 目標:8%以内 に対し9.3% ((H28. 7.2% H27. 9.2%)
- ・皆精勤率向上 目標:38%以上 に対し23.4% (H28. 25.7% H27. 26.0%)

【就職】

- ・年内内定率 目標90%以上 に対し 79%
- ・就職率 目標100% に対し 100%

② 学校関係者評価委員会コメント

根本：皆勤・精勤の生徒と遅刻、欠席が多い生徒との差が激しかった。

残りの登校日のカウントダウンをする等クラスの取り組みから遅刻、欠席の防止を促した。

手塚：社会に出てから、新人保育者で遅刻、欠勤してしまう状況はあるか？

佐藤：個人差が大きい。個人的な理由で急な休み申請をしてくる等学生の時と同じような感覚でいる保育者もいる。

川口：遅刻癖のある新人もいる。稀に睡眠障害で学生の時の生活習慣と社会人になってからの生活習慣が違ふ。指導パートナーをつけてフォロー体制を整えている。

手塚：生活習慣を身につけるため、卒業生から全て1限の授業で時間割を組んではどうかという案もある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・業界の動向や求める人材像を正確に捉えた学校教育への具体的な反映
- ・教科間／教育課程に応じた教科の連携による実践力向上
- ・保育所保育指針改定に伴う時代の変化に即した教育課程、授業カリキュラムの改善

③ 今後の改善方策

- ・実習、就職園との積極的な関係構築及び情報の視覚化とタイムリーな提供
- ・教科間・学年間とのすり合わせを実施し、学年のステップを意識した教育内容

③ 特記事項

- ・教職員には、教育理念、ビジョン、ミッション、人材育成方針を体系化し、年3回の全体会議内での研修、ポスター掲示等により周知。
- ・あきらめない教育本の「教師としてあるべき8ヶ条」を朝礼で唱和。
→あきらめない教育本の中から教職員に対して学園の理念の浸透するようなお題で共有
- ・生徒への理念浸透向けに、入学直後のスタートアッププログラム研修や、教室内ポスター掲示し、HR等での継続的な周知。
- ・オープンキャンパス保護者説明会や入学予定保護者会の実施。
- ・卒業研究の授業で「学内保育発表会」を実施し保育技術を披露、授業と行事との連動を図った。
- ・保育園との連携により各コースにて模擬授業の実施（月1回ペース）
- ・ボランティアサークルとして生徒が主体的に実践力を学べる機会を提供する。（子育て支援開始）

④ 学校関係者評価委員会コメント

川口:知識として入ってくるものと、現場で経験することは異なる。現場での日誌の指導が生徒の負担となり、子どもと関わる楽しさを感じにくいこともある。

佐藤:子どもの対応がうまいのは意外と高校生。⇒素直に子ども達と関わり楽しむことができる。

知識を入れた上での実践となると、生徒は固くなる傾向にある。

川口:まずは楽しむ、子どもの成長に携わる喜びを感じる事が大切。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・卒業生採用
- ・分業に伴う担任／事務／講師間のスムーズな情報共有
- ・教育という組織に対する教職員の意識向上

② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス体制については、少しずつ改善がされているが、教職員の意識を高める情報の提供が必要
- ・個々の能力に応じた適材適所の校務／業務配置(人材育成と業務の見直し)

③ 特記事項

- ・運営組織は、理事会・評議員会を適切に開催。必要な審議を行い、議事録を作成している。
- ・学校運営は、学園組織図、学則、校務分掌表に示している。学則は必要に応じて学則変更を行い、校務分掌表は年度ごとに内容や構成員を見直している。
- ・採用は、関係法令により教員資格が定められている分野は、規定通りの人材を確保。他の分野においては必要要件を満たした人材を確保。
- ・情報管理においては管理体制を強化している(office365の活用及び事務職員の採用)

④ 学校関係者評価委員会コメント

手塚:どんな形でコンプライアンスを守る取り組みを行っているのか？

佐藤:3月に全体にコンプライアンスに関する内容を会議で伝えている。

写真、スマホを持ち込まない等基本を全体で見直す。保護者には承諾書をもっている。

川口：職員全員に誓約書を書いてもらう。SNS等職員研修も行っている。

佐藤：男性保育者がポケットに携帯を入れたまま、トイレに入ったことで保護者からクレームがあった。
細心の注意を払うよう指導している。

川口：保護者から飲みに誘われることも多々あるが一切禁止している。

男性保育者が父親に誘われることが多い。

保護者からの誘いはすぐに返答せず、必ず報告するよう指導している。

飯島：年度初めに伝えているが、8月の会議で全教員に再度伝えていく。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育の充実
- ・キャリア教育に必要な職員のスキルを磨く研修の機会が不足している点
- ・職業を見据えた講師の授業力向上
- ・実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）の体系化

② 今後の改善方策

- ・在学期間中から長期就労に対する授業／ガイダンスを行う(卒業生／業界の方からの意識づけ)
- ・授業アンケートを活用し、個々のスキル向上を図る
- ・ピアノなどの実技科目において複数の教員での授業実施(TAの活用)
- ・カリキュラムを見直し、実践力向上のための情報共有や意見交換の場を作る(教科会の実施)
- ・シラバスにおける評価項目の改善及び生徒へ評価基準と学習効果を提示する

③ 特記事項

- ・併修先(姉妹校小田原短期大学)に合わせたカリキュラム変更の実施
- ・年3～4回の教員研修、授業見学月間の設置等、授業や指導力向上に向けて取り組んでいる。
- ・年2回の「授業の進め方アンケート」、「担任アンケート」を実施し、副校長(教務課長)や担任指導者よりフィードバックをし、改善につなげている。
- ・成績評価、単位認定は「学則」及び「教務ハンドブック」に従い、厳正に行っており、初回授業にて担当教員から授業計画とともに直接説明をしている。
- ・各教科よりシラバス作成を依頼し、教科間の連携を図りやすいように情報公開を行っている
- ・生徒からの授業アンケートを実施し、良い授業、面白い授業などを紹介し、成功事例を教員間で共有
また授業アンケート項目以外でどのように感じているかを率直にヒアリングし、プラスの意見を共有する。
- ・生徒自身も学習の意欲を持てるように学びを主体的に取り組み、成長実感が持てているかのアンケート実施

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

現場に出てみて、学生時代に受けたかった授業は？

根本：座学で、2コマ続きの保健の授業が大変であった印象が強い。就職した後に大切さを改めて感じている。
ケガをした時の対処、ミルクの作り方、流行りの感染症等、体験型の授業展開があるとありがたい。
書き物では連絡帳の書き方まで学んでおきたかった。

飯島：学んだことが将来何に繋がっているか、授業で伝えることはもちろん、他の授業でも連動するようにしていきたい。

佐藤：現場では書く内容も大事だが、書くスピードも重要。

根本：書くスピードは学生のうちは意識をしていない。日誌でも何時間も費やしてしまう。

飯島：授業や実習でもスピードで意識できると良い。出来事を言葉にするのが苦手である。語彙力が課題。

川口：書くスピードが自分の仕事の時間を左右する。写真や動画を見て、保護者にどんな文章で伝えるか、
授業で実践してはどうか？新人の研修で実施している。

文章を作る保育のアプリもできているので、活用する方法も一つ。

佐藤：日誌は記入欄が多いが、連絡帳は少ない枠に文章をまとめて記入するため、文章を集約する力が必要。

根本：ペアワークで一人が保育者として文を記入、一人が保護者として文章を見るワークを行ってはどうか？

○○○○○○○ → 返答のコメントを記載する。

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3

資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学に至るまでの担任力(保護者の巻き込み/他の教員の巻き込みなど)
- ・個々の保育観にマッチングした就職サポート(エリア力)
- ・卒業生の就労状況(活躍や継続)の把握
- ・在学中におけるキャリア形成の指導及び社会人基礎力を含めた社会人育成

② 今後の改善方策

- ・退学事例報告会の定期的な実施や学生情報の迅速な共有
- ・スクールカウンセラーによる勉強会及び担任を中心とした教科担当教員の連携と声かけ
- ・個別の学習フォローが必要な生徒に対するオフィスアワーの活用
- ・QUのアンケートを活用したクラス運営(勉強会実施済み)

③ 特記事項

- ・年内内定率 目標90%以上 に対し 79% ・ 就職率 目標100% に対し 100%
- ・エリア担当教員を配置し、担任とダブルで就職をサポートしている。
- ・エリア担当制により、卒業生や在校生の実習就職評価を直にヒアリングし、指導に反映している。
- ・退学防止については、入学前新入生保護者会を実施、学校生活のサポート協力体制を依頼。
- ・1年生のクラスにサポートに入る在校生の会を月1で開催し、1年生担任も同席し、スタートアッププログラムから継続的に退学率等を検証し、適宜声かけをしてもらっている。
- ・実習から就職につながるステップを作ることで、人間関係や保育観などのミスマッチを起こさないためにボランティア及び実習園を過去の実績に基づき一覧にて掲示し、可能な限り卒業生や学校としてお付き合いのある園を選択していくように指導している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

就職活動で求めるものは？

根本: エリア担当教員の存在は大きく頼りになった。園での経験が価値観を左右するが、実習以外で経験する機会が少ない。特に幼稚園。

手塚: 幼稚園でのボランティアで視野を広げることも方法のひとつ。卒業後のキャリア形成について、伝えておいて欲しいことは？

佐藤: 与えられた仕事が給与という対価になっていること。漠然としたイメージで判断してしまうことが多い。小規模が良い、規模が大きい園は忙しいというイメージを持っている人が多いが、園によって異なる。

イメージではなく、自分でしっかり情報収集して選択することが大切。簡単に就職できる分、簡単に辞める傾向にあることが業界全体の課題。

飯島: 就職活動のスマールステップを用意し、しっかり自身と園情報を理解した上で就職する方法をとっていく。

手塚: エリア教員による園の方針、園に卒業生がいる等生徒と就職先のマッチングを図る。

川口: 園がどのくらい子どもに思いを持って接しているかを見てもらいたい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・同窓会組織の強化
- ・キャリア教育・職業教育の取り組みの強化（※卒業生支援）
- ・近年社会的背景からボランティア希望者が増加している。そのため、学校としてボランティア含め関係施設との連携や関係構築が求められる点

② 今後の改善方策

- ・QUを活用したクラス運営の実践及び検証
- ・就職ガイダンスにおける保育現場の先生からのキャリア案内（定期的な就職ガイダンスを実施）
- ・保育現場を意識した人材育成のための勉強会を実施予定

③ 特記事項

- ・専属のスクールカウンセラーを設置
- ・卒業生へのフォローを目的としたホームページ“Sanko Link”の浸透・活性化
- ・担任と、エリア担当の2名によるTwoTeacherシステムにて就職をサポート
- ・H28年度よりボランティアサークルを立ち上げ、学生が実践力を向上できる場を提供
- ・同窓会の開催（H29年11月3日開催済）
- ・ボランティア活動幹旋のための文京区社会福祉協議会との連携
- ・「ももいく」サイトの活用、在学中からの登録促進

④ 学校関係者評価委員会コメント

手塚:今年度学内の施設を利用して子育て支援を実施予定。

根本:在学期間中にたくさんのボランティアや現場経験ができることは良い経験になると思う。

なお、就職してからも保護者対応は必要となるため、在学期間中に子育てをする保護者の方とコミュニケーションをとれる場があることは在校生にとって有難い。

佐藤：ボランティアは積極的に受け入れているため、希望者がいた場合は運動会や各行事に参加することは可能。今後も要請があれば希望を出してほしい。

川口：実習だと日誌や評価が入るため、学生自身が本来もっているこどもが好きな気持ちを素直に出すことが難しくなっている。その分、アルバイトやボランティアなどは絵本などや自分が作成した保育グッズを気軽に実践できるため、園にとっても学生にとっても実習以外での経験をすることはメリットがあるのではないかと。なお、当園ではアルバイトからそのまま就職につながった学生が数名いるため、就職までの今後も積極的に受け入れを行っていきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・定期的な避難訓練、防災対策

② 今後の改善方策

- ・HR等での伝達にとどまらず、保育園との防災対策の実施(防災訓練等含む)

③ 特記事項

- ・施設・設備は、平面図、備品台帳などの書類により管理できている。
- ・平成26年度より、全教室にプロジェクターとスクリーン、スピーカーを配置することにより、積極的にOA機器を利用しての授業が出来る環境を作っている。
- ・学外実習は、各学科のカリキュラムに位置づけて実施しており、実習担当と実習教科担当により毎年基本方針と年間計画が見直されている。
- ・実習中は、エリア担当教員が定期的の実習先を訪問し、学生の状況を把握すると共に担任とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。
- ・海外研修の参加者は年々増加、現地の子供たちとの交流や園訪問等保育関係内容が充実している。
平成28年度は1月10日～1月16日の5泊7日(アメリカロサンゼルス)
- ・防災対策は、建物全体のものとして「消防計画」等に基づいて、防災体制の整備、備蓄品の補充、基本的な体制を十分に整備している。
- ・防火管理者、施設管理責任者等の予防担当者を適切に配置し、必要に応じてその任命を再確認している。
消防設備点検により指摘のあった箇所は速やかに改善を行っている。非常時の動きの確認等、HR等を通して担任から伝達・指導している。
- ・3号館新校舎完成(H29年度4月)
- ・三幸学園の本郷地区のみの学校にて防災マップの作成、配布

4 学校関係者評価委員会コメント

実際に学んできて、環境はどうだったか？

根本：職員室が1号館にしかないことが不便だった。身近に先生がいることで、気軽に相談にのってもらえる環境があるとなお良い。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を意識した募集活動

② 今後の改善方策

- ・教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行う。

③ 特記事項

- ・地域に設置されている広報室との連携を強化し、ニーズに合った情報の提供ができるよう取り組んでいる。
- ・中学生の学校見学や、高校1・2年生向けの広報活動において、職業理解を深め、保育者を目指してもらえることも意識している。
- ・学納金及び奨学金制度、学費減免制度については、社会情勢を踏まえて毎年、検討を重ねている。学納金の設定については妥当なものであると考えている。学納金等徴収する金額はすべて募集要項に明記している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

学校の魅力は？

根本:すぐに出てくるのは先生方のサポートの手厚さ。実校の卒業生の話聞いて、改めて先生方の支援、サポートの手厚さを実感している。

手塚:現場に出てから学校への感謝の言葉をもらうことが多い。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

・会議や掲示等を通じて、全ての職員が法令遵守に対する啓蒙を継続的に図れるよう働きかける

③特記事項

- ・本校は、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適正な運営をしている。本校は、教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本に、関係する諸法令を遵守している。寄附行為、学則等を監督官庁に届出て認可を得ている。
- ・在学生に対しては、初回の HR において、「学生便覧」を配布し、学修に関する諸手続、学生生活、喫煙等について、法令遵守の視点から周知している。また、在学生に対しては、HR や授業にて、ネット利用の注意点を継続的に伝えている。
- ・コンプライアンス DVD を視聴（グループワークの実施）。

- ・自己点検・自己評価に関しては文部科学省ガイドラインに従った情報公開を実施する予定。
- ・自己点検・自己評価の材料である「授業アンケート」は、学校平均と共に全教員へフィードバックしている。
- ・学校平均、三幸学園全体の平均に関しては全教員へ公表し振り返りを行っている。
- ・「卒業生アンケート」に関しても同様、三幸学園全体の平均と本校の結果を、年度初めの全体会議で公表し教員全体での振り返りを行うことで、次年度へ活かす材料としている。
- ・個人情報誓約書のフォーマットのリニューアル(H29年度より改善)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・積極的な公開講座、地学・教育連携の向上
- ・地域のニーズにあった教育内容の提供

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動の積極的な斡旋／ボランティア先との関係構築
- ・子育て支援の開始（地域開放・文京区への貢献）
- ・保育発表会（保育科）を文京区内のホールで実施することで文京区内の子育て支援に貢献

③ 特記事項

- ・クールビズ、ウォームビズに取り組んでいる。
- ・使用していない教室、廊下の電気は細目に消すことを徹底することを学生、教職員に協力を要請し、電力使用量の節減のために取り組んでおり、使用量報告も行っている。
- ・コース選択学生による「親子教室」を開催している（例：親子クッキング・親子体操・JMミック等）。
- ・学内保育発表会を実施（H28年度4園来校 H27年度 5 園来校）。
- ・職業訓練への受け入れ（H30 年度より5名入学）

④ 学校関係者評価委員会コメント

現場から見た、養成校へ求めること。

佐藤：保護者から体操と英語の希望が多い。座り方、普段の姿勢等体幹が悪い子どもが増えているのでお金を払ってでも通いたいという声を聞く。

川口：子育て支援の取り組みとして保護者へのコーチングの育児勉強会、子ども達への体操教室、異文化交流等に取り組んでいる。

飯島：親と子どもと一緒に取り組める内容がニーズもあり、交流が深まって良い。

佐藤：親子でおもちゃ作り、

手塚：住む場所によって保護者の年齢、ニーズが異なるのではないかと？文京区は保護者の年齢層が高いが保護者の年齢層が低い地域もある。

川口：保育者を目指す人が減ってる中、学校で次々と新たな取り組みをしていく姿勢が感じられた。保育の魅力をこれからもっと伝えていってほしい。

根本：何のために学んでいるのか⇒子どもが可愛い、保育が楽しいということを授業で日々伝えると、生徒のモチベーションが保てて良い。